

EDELWEISS

JUL/AUG 2023

Züri Fäscht

3年に1度のチューリッヒ祭が4年ぶりに開催されます！

初めてあの花火を見た時には、「チューリッヒに住んで良かったなあ〜」と思うほど感動しました。そしてポップス音楽の日とクラシックの日、2日連続で豪華な花火が見られ、それぞれの音にピタッと合うような打ち上げのタイミングに、スイスの時計産業魂を感じたものでした。それが段々、押し付けがましく思われるようになり、昔、日本の川原に浴衣で見に行った花火大会みたいに、ただただ花火だけを堪能したくなった頃、ピタッと足並みを揃えるドローンが登場！その数々のドローンがグラフィックデザインのように何かを描いたり、音楽に合わせて踊ったりするようになり、風情への郷愁すら許されないテクノロジーの世界の到来に寂寥感を覚えた頃、襲って来たコロナ禍。今年とはとにかく、Züri Fäschtが開催されるだけで感謝です。人間って我が儘過ぎますね。

太陽だってそうです。暗いヨーロッパの冬をようやく乗り越え、天候不順な4月を過ぎて、陽射しが強くなり過ぎると、「あ〜、暑い、暑い」と仕事や勉強も手につかず、湖に逃げたりするのですよね。それでもクーラーなしで過ごせるスイスは、日本の夏に比べればパラダイス。今年の夏は、水分補給だけは気を付けて、暑さも楽しんでしましましょう！お勧めはやはり、冷え冷えのスイカ？冷たい麦茶？水シャワー？大切なのは十分な睡眠と栄養のある食事かもしれません。パカンスや森の中の探索、湖水浴などで十分夏を楽しんだ後、9月にはまた元気な皆様にお会いできますように・・・。(SN)



©Züri Fäscht

Züri Fäscht

花火大好き江戸っ子の私は、花火の音を聞くと血が騒ぎます。

前回'19年は仕事帰りのS-Bahn内で花火が見え、Stadelhofen駅で降りたあと、闇雲に昇ったのが駅の上のプロムナード。写真のように、しっかり見えました！

Frauenbadからも見られるとか、「お出かけ情報」にあるように食事付きで楽しむという手もありますが、まだ残席あるかなあ・・・。



- ◆ 巻頭文 『SDGsよりも常若(とこわか)を』 青砥 玄
- ◆ 私のイチオシ、シェアします！ Vol.32
『ヴィンタートゥールの街と美術館』 阿部 牧子さん
- ◆ 古典籍スクール 其の十二 「江戸の歌舞伎熱」 ブランド啓子
- ◆ 企業訪問 スイスで頑張る日本企業 Vol.20
Avaloq (An NEC Company)
吉田 友秀さん (Zürich在住)
- ◆ KETTE Vol.169

JCZ賛助団体
(アルファベット順)

Kowa Holdings / Pharmaceutical Europe AG Kuoni Global Travel Services (Schweiz) AG / JTB Corp.
NIPPON EXPRESS (SCHWEIZ) AG Nishi Japan Shop / Japan Restaurant Bimi & Saku TOYOTA AG

SDGsよりも 「常若(とこわか)」を 青砥玄(会長)

世はまさにSDGsブームです。SDGsとは2015年の国連総会で採択された「持続可能な開発目標」です。日本人は国連というと「平和の殿堂」的な印象を抱いている人が多いのですが、そもそもUnited Nationsは、基本的に第二次世界大戦時の連合国を意味します。裏を返せば勝利した連合国を中心として、戦後自らに有利な世界秩序を策定し正当化するために拡充していった組織でもあります。戦争当時の枢軸国を無条件に攻撃できる「旧敵国条項」がいまだに残存しますし、安全保障理事国のみが持つ「拒否権」という特別ルールがあるために現実的には戦争抑止ができていません。国連のルールメイキングに公平性や正当性が担保されているとは言い難いのです。故に一見もっともらしいSDGsも、ビジネスの為に新しいスタンダード作りなのでは？と疑う視点も必要でしょう。既にSDGsは一種のファッション化している感があるのですが、その目標を見ると「海の豊かさを守ろう」、「陸の豊かさも守ろう」をはじめ、多くは言われるまでもなく、日本人が元来大切にしてきた伝統精神なのです。そういった視点で極めて面白いエッセイを、論壇誌「表現者クライテリオン」の3月号で読みました。「一木一草に神を感じ自然の恵みを活かす日本文化こそ、真に持続可能な社会の実現に貢献できるのではないか」というその内容に大いに共感しましたのでここにをご紹介します。著者はジャーナリストで俳優の葛城 奈海女史です。

式年遷宮の意味

葛城氏がSDGsという言葉に初めて出会ったのは、福岡県宗像市の宗像大社で開催されている宗像国際環境会議でした。7年前より毎年、葛城氏は総司会とパネルディスカッションのモデレーターを務めており、その環境会議の中で「SDGsも良いが、日本には「常若(とこわか)」という言葉がある。「常若」とは、いつまでも若々しく、持続可能なこと。地球環境を持続可能なものにしてゆこうとするならば、SDGsなどという外来の言葉よりも、より本質的なものがこの「常若」の思想ではないか。この環境会議から「常若」を日本に、そして世界に発信してゆこうではないか、ということによって参加者の心が一致した。」と語っています。「常若」が象徴的に表れているのが、伊勢神宮の式年遷宮です。式年遷宮とは20年に一度、全ての社殿、宝物、装束を一新して大御神にお遷り願う神事で、天武天皇の発意により持統天皇の御代に始められました。なぜ20年ごとなのか定説はないものの、職人の技を継承するのに合理的な歳月と考えられています。破損したわけでもないのに造り直すのもったいないと思われるかもしれませんが、使用後の木材は全国の神社の建て替えや自然災害の復旧などに用いられ、端材までリサイクルされています。20年ごとに蘇ることによって、永遠に変わらない清浄な姿を保つ。このような伝統は世界的にも類例を見ない内容です。1,300年の時を超えて、私たちは古の人々と同じものを、同じ姿のままでのちたりにしている。そればかりか、伊勢神宮は今現在も活きた建築として神様を宿らせ続けている。これぞ常若の神髄でしょう。

法隆寺の柱

「木は生育の方向に向けて使え」「木ではなく山を買え」「木組は寸法でなく木の癖で組め」と、宮大工の世界で師匠から弟子へと口伝により継承されている言葉の数々に唸ったと葛城氏は言います。含蓄あるこれらの言葉を紹介してくれたのは、寺社建築専門の建築会社「鶴工舎」の創設者・小川三夫さん。小川さんは、伝説の宮大工・西岡常一がとった唯一の内弟子としても知られています。パネリストとして登壇した小川さんは、法隆寺の柱の写真を見せながら語ります。「木材は、生きていた土壌や向きなど育った環境によって性質が決まる。節がいっぱいあるということは、それだけ枝が出て葉が茂っていたということ。つまり南側。普通こんな節だらけの材は使わないのだけれど、あえて建築の南側に使った。逆に北側の柱には節が全くない」「檜(ひのき)は伐られてから二百年かけて強くなり、その後千年かけてゆっくり弱くなる。だから法隆寺の檜と今伐った檜は、強さがほぼ同じ。杉だったらこうはいかなかった。」「適材適所」という言葉がありますが、まさに木の種類によって、異なる特質、さらには同じ木でも生えていた土壌や向きなどによって異なる特性があり、それを生かして先人たちは山の恵みを文字通り「活用」してきたのです。そのスケールのなんと大きく深いことでしょうか。

気仙沼湾の牡蠣

「森は海の恋人」というフレーズを生んだ気仙沼の牡蠣漁師・畠山重篤さんの話も紹介されています。畠山さんが牡蠣の養殖業を営む宮城県の気仙沼湾は、波が静かで水深があり、古くからさまざまな海産物の養殖場として賑わってきました。ところが高度経済成長と共に赤潮が発生するようになり、いつしか沿岸から小魚や小動物の姿が消えていき、漁師たちも大きな打撃を受けました。当初は原因不明でしたが、気仙沼に注ぎ込む大川を遡ってみたところ、その森は手入れがされず光が差し込みにくく下草が生えないため、雨が降ると土砂が流出し、川や海を濁らせていたのです。これが原因だと気づいた畠山さんは、すぐさま行動を起こします。漁師仲間と共に色鮮やかな大漁旗をはためかせて上流の山に登り、落葉広葉樹の苗木を植え始めたのです。それが平成元年の事。以後20年の歳月を経て木々が育ち、大川は確実にきれいになり、五万匹の鮭が遡り上ってくるまでに回復しました。「昨年、鰻(ウナギ)が戻ってきた。環境指標生物の鰻が戻ってくれば、この海はもう大丈夫！」と語る畠山さんは、牡蠣を「森の滴」と呼びます。宝石のようなその言葉は、葛城氏の心にほとりと滴り落ち、深く染み渡ったそうです。

「海の鎮守の森」

このように自然の性質を見極め、活かし、無駄なく使うことで、はたまた何らかの原因で自然を損なってしまった場合には自ら軌道修正して、日本人は持続可能な社会を受け継いできました。宗像国際環境会議も、そもそも玄界灘の海水温上昇によって沿岸に広がってしまった磯焼けや、ひっきりなしに流れ着く漂着ゴミの問題を解決すべく、平成26年にスタートしたものです。近年の急激な海の変化への提言や情報を国内外に発信し続けて、昨年で9回目を迎え、会議では変わりゆく海の実態が報告され、実状を改善し、子々孫々まで持続できる環境を残すためにはどうしたらよいかという、多角的な議論が行われています。併せて「Think globally, Act locally」(地球規模で考え、足元から行動する)を理念に「海の鎮守の森」構想を掲げ、毎年、竹漁礁づく

りや漂流ゴミ清掃といったフィールドワークも行っています。「鎮守の森」とは、寺社の周りに残る神仏が宿る天然の森のこと。開発を免れた鎮守の森には、エアポケットのようにその土地固有の自然植生が残されています。その鎮守の森を見習って、磯焼けで海藻がなくなってしまった海の中にも「海中の森」を復活させようとしているのです。地元の福岡県立水産高校の生徒の指導による竹漁礁づくりは、竹で漁礁を作り、磯焼けで海藻がなくなった海に沈め、イカや魚を呼び戻す活動です。竹はかつては様々な用途で活用されていたのですが、時代の流れと共に使われなくなり、竹林が放置された結果、我が物顔で山に入り込むようになっています。そんな竹が「森の人」や「里の人」を悩ませる一方、「海の人」は磯焼けに警鐘を鳴らしていました。その双方の声を聞いて生まれた竹漁礁づくりは、まさに陸と海の課題を同時に解決する、一石二鳥の画期的な取り組みでした。

ささやかな取り組みかもしれませんが、しかしだからこそ、その気になれば津々浦々で実践できる。こんな「小さくともキラリと光る地方発の取り組み」が全国に広がることを願ってやまない葛城氏は言います。

日本文化の使命

こうした日本の文化・伝統の根底にあるのは、恵みを与えてくれる一木一草に神を感じ、感謝と畏敬の念を抱くという日本人の自然観です。

平成29年7月に世界文化遺産になった「神宮島」宗像・沖ノ島と関連遺産群は、当初日本が推薦していた構成資産の一部だけしか登録の見込みがなかったのですが、宗像大社の葦津敬之宮司らが交渉に当たり、Spiritual(霊性)、Ecology(生態学)、Animism(精霊信仰)をキーワードに提議したところ、多様な文化文明を持つ参加二十一年の代表から、全ての構成資産について登録の賛同を得たそうです。近代文明が軽視してきたもの、それでいて日本人が文化として大切に受け継いできたものの価値が今、世界から見直され始めています。SDGsは2016年から2030年までの達成目標として位置づけられています。常若は世界規模での共存共栄と、人と自然の営みを大切にする思想と行動の連続の重要性を説いています。当然ながら、その営みに時期目標などは存在しません。ある時期までにある行動、状態が実現すればよいという短期的視野に基づく発想自体が、常若とは相いれない思想ではないでしょうか。

持続可能な地球環境を本気で目指すのなら、SDGsなどという降って湧いたような浅薄な概念に飛びつくのではなく、日本人がそもそも受け継いでいる古来の価値観、自然観を見直し、取り戻し、そしてそれを世界に発信することこそ傾注すべきではないでしょうか。日本の文化伝統には、それだけの底力がある。それこそ、世界を持続可能、つまり常若な世へと導く鍵となると確信していると葛城氏は締めくくっています。

SDGsを必死に唱える前に、私たちの足元にすでに存在している良き日本の伝統、精神をもう一度見直す必要があると思う次第です。SDGs以上の本質的内容が其処にはあると思うのです。

出典(参考文献)

思想・言論誌「表現者クライテリオン」
【葛城奈海】SDGsよりも「常若」を
の記事はこちらからのQRコードから



ご意見・ご質問は青砥まで gen.aoto@toyota.ch

さあ、いよいよ夏ですね。ちょっとしたオフの日があればひょいと電車に乗って知らない場所に行ってみようとなる、絶好の季節です。今回私からは、チューリッヒ中央駅から電車一本で30分ほどで行けるヴィンタートゥール (Winterthur) という街と、近代美術のコレクションを多く所蔵するヴィンタートゥール美術館 (Kunstmuseum Winterthur)をご紹介します。

ヴィンタートゥールの旧市街は、中世からキーブルク家やハプスブルグ家の領として栄えた歴史を感じさせてくれる趣があって、歩いていて楽しい街です。細い小道を全部歩きたくなり、その先々で可愛らしい雑貨屋さんなどが見つかります。

ネットで調べてみると、ヴィンタートゥールはチューリッヒと並び、19世紀に銀行や機械工業が発展した街だそうです。確かに、駅を挟んだ旧市街の反対側には、かつての煉瓦造りの趣ある工場などが今も残っています。道に残っている貨物用の線路や、大きなクレーン、工場特有の大きく古いガラス窓の施設などが、今は住宅や教育施設、映画館やレストランといった市民の憩いの場として使われています。

ヴィンタートゥール美術館は街に三つの建物 (Beim Stadthaus, Reinhart am Stadthaus, Villa Flor) があり、どこかで入場料を一度払えば他の建物も入れます。この三つの中で私が特に気に入ったのは、MuseumstrasseにあるBeim Stadthausの美術館です。そこに初めて足を踏み入れた時は、雨の平日だったせいか、常設展の方には他の来館者は見当たりませんでした。



**STADT, BERG ODER INSEL?
私のイチオシ、シェアします!**

**ヴィンタートゥールの街と美術館
阿部 牧子さん**

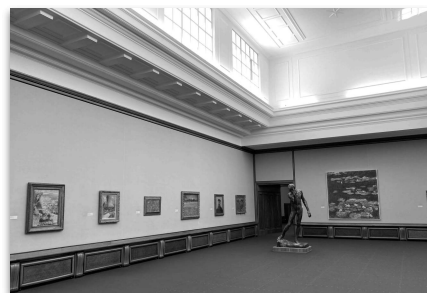


なんだか寂しいところに来てしまったなと思ったのも束の間、展示室に入ると目に飛び込んできたのがモネの睡蓮の絵でした。モネは生前大量に睡蓮の絵を描いたことは知っていましたが、え、ここにもあるの？とポカンとしてしまい、次の瞬間には水の色彩に引き込まれていました。そしてふと同じ部屋を見渡すと、強烈な黄色の背景を背負って佇む郵便配達人の絵があるじゃありませんか。あれはゴッホだと気がつき、また棒立ちになってしまいました。例えばパリのマルモッタンモネ美術館やオルセー美術館に行くとしたら、入場制限のある中なんとかチケットを買って列に並び、広大な館内図と睨めっこし、あのモネやゴッホの名画を観るんだと意気込んで人をかき分けやっとそこにたどり着く、という手順ですが、このヴィンタートゥール美術館とき

たらフランス印象派の巨匠の絵がほぼ独り占めで、心ゆくまで静寂の中で鑑賞できたのです。

そんな中、特に惹きつけられた絵がありました。ゴッホの「タンポポ」(Les pissenlits)と題されたその絵は、本当にそのままキャンバスいっぱい春の草むらがかかれていました。ゴッホ特有の筆の跡一つ一つが名も無いみずみずしい草を形どり、黄色のタンポポは彼の描く星のようでした。誰でも知っている、春の草むら。そこに触れたらひんやりと冷たく、野の香りが手に移る。そんな様がまざまざと伝わってきます。なんて楽しくて美しいんだろうと、何度も近づいたり遠のいたりして眺め、最後にはスマホで写真に撮って壁紙にしました。とにかくいきなりフランス印象派の展示が山盛りで、順路の最初ですでお腹いっぱいになります。その後モクレーやピカソが展示されていて、充実の展示内容でした。

さて、じっくり美術鑑賞するとお腹がすくもの。旧市街のUnter Graben通りにあるBurger Chuchiというハンバーガー屋さんは、シンプルに美味しいお肉のバーガーが楽しめるのでおすすめです。さらにもうちょっと街歩きをするためのコーヒーは、Steinberggasseにあるテイクアウト専用のコーヒー店CinCinが絶品なので、ぜひお試しください。最後にMarktgasseにあるde Holzofe Beckというパン屋さんヴァニラクリームのコルネットをお土産に買えば、もうその日は完璧なのではないでしょうか。



GlobAS Relocations Europe GmbH

チューリッヒからのお引越しはグローバス・リロケーションにお任せを！日本向け、スイス国内及び、スイスから欧州へのお引越し、譲渡/転売品の輸送、処分品廃棄等も承っております。お問い合わせの際EDELWEISSを見たとお伝えいただければ空港宅配無料クーポン、JAL・ANAマイルプレゼントのご用意等ございます。詳しくはメールにてお問い合わせ下さい！

Email: zurich@globas-relo.com
HP: <http://www.globas-relo.com>
Tel: +49(0)89-189-386-21 (日本語直通) 担当:三嶋



大使館からのお知らせ

領事出張サービス

2023年7月 チューリッヒ
日時：7月22日(土)
10:00-12:00, 13:00-15:00
場所：チューリッヒ日本人学校
日本式2階音楽室
住所：Florastrasse 18, 8610 Uster
申込締切：7月6日(木) 必着

2023年8月 バーゼル
日時：8月30日(水)
13:00-15:00
場所：Klubschule Migros Basel
住所：Jurastrasse 4 (Room 204)
Im Gundelitor 4053 Basel
申込締切：8月15日(火) 必着

当日ご予約のない来訪はご遠慮ください。お申し込み締め切りは上記の通りとなります。来場者の混み合う状況を避けるとともに、来場された方のお待ちいただく時間を短縮すべく、受け取り時間を指定させていただきます。受取時間は、出張サービスの約1週間前にメールで連絡いたします。



江戸の歌舞伎熱

1. 八代目市川團十郎

今回は歌舞伎の演目「勸進帳」についてお話ししました。今回は歌舞伎の花形役者だった八代目市川團十郎(1827-1854)の不可解な自殺と、死後に発行された「死絵」に関してのお話です。市川團十郎という名跡(注)は、歌舞伎の名門市川家に代々継承される個人名です。

彼は七代目團十郎の長男で、5歳の時に江戸で初舞台を踏みしました。天保3年(1842)、10歳の時に八代目を襲名し、姿・芸・人柄の3拍子揃った人気絶頂の役者となりましたが、天保13年の天保の改革で、これまで派手な暮らしをしていた父がお咎めを受け、江戸から追放されてしまいます。團十郎家が四代目から代々住んでいた深川の島田町の実家は、華やかには見えませんが、実際には七代目團十郎、正妻、妾2人、腹違いの12人の子供たちと八代目團十郎が共に生活するという、超複雑な家庭環境だったのです。父は追放になり、実家も取り壊されます。八代目は嘉永3年(1850)に父が再び戻るまでの間、歌舞伎と実家の両方の家を支えました。

追放の罰を解かれた父の要請で、親孝行者だった八代目は、安政元年(1854)に上方での公演を行います。名古屋の後、大坂で父と共演の筈でしたが、その前日に謎の自殺を遂げてしまいます。さあ大変!原因追

求は今日まで延々と続いて来ていますが、未だに明確な答えはありません。

2. 死絵(しにえ)

死絵とは、江戸初期からの美人画、役者絵、名所絵などの浮世絵の一つで、江戸後期から明治時代にかけて歌舞伎役者などが亡くなった際、故人を偲ぶために出版された追悼の錦絵(多色摺)です。

亡くなった人の絵姿に没年月日・戒名・菩提寺・辞世の句などの情報が添えてあります。水浅葱(みずあさぎ)、薄青色の衣装が多いのはこれが当時の死装束の定番色だったから。人気役者の死絵は、普通の浮世絵の数倍も売れたので版元たちは競って死絵の板行(はんこう)を行いました。そのため死後二、三日であつという間に江戸中に訃報が知れ渡りました。謎の自殺を遂げた八代目團十郎の死絵は歴史上最も多く発行され、その数はなんと三百種類にも及んだとか。描かれた内容は、すでに故人となっている役者達との邂逅、極楽浄土に向かう旅姿、極楽からの迎え(仏様達の顔は先に没した役者の似顔絵)など微笑ましいものが多く、中でもお釈迦様の涅槃図に見立てた死絵(あらゆるものが團十郎の死を嘆き悲しむ図)などが有名です。

当時の三升屋二三治の『芝居秘傳集』には彼の驚きが記されています。

「このとき江戸中大評判にて、どこへ行くでもこの話ばかり。。。果たして町々の錦絵店、三升(みます、團十郎のこ)の死絵のみにて他の絵なし。古今まれなる人気と驚きたり。」『舞曲扇林・戯財録』(岩波文庫)1943

3. 真面目人間

八代目團十郎の人柄を表すこんな逸話も残っています。弘化元年、彼が22歳で初めて助六を演じることになり、五代目松本幸四郎(かたき役の髭の意休)の頭に下駄をのせて嘲笑する演技を、幸四郎がどんなに頼んでも、どうしても出来ませんでした。人の頭に、ましてや尊敬する幸四郎の頭に、下駄をのせるなど...!ということで、とうとうこの場面はカットされてしまいました。



無常の風に吹かれてあの世に旅立とうとする團十郎を、老いも若きも猫まで出て来て必死に引き止めているところ。右上部には「市川團十郎 行年三十二才 法名浄延信士 八月六日」などの文字が読めます。一歌川国芳 福岡市博物館蔵 (注) 名跡(みょうせき、めいせき)は 家元制度などと密接に結びつき、代々継承される個人名。もしくは家名。

今回の江戸の歌舞伎熱もどうぞお楽しみに!



チューリッヒ日本人学校全日校

入学・編入受付: 随時
2024年度(4月入学)申請受付中
※詳細は本校HPをご覧ください

募集要項

小学部1年 午前クラス・午後クラス
幼稚部 午前クラス・午後クラス

- ・申請書をお送りください
- ・クラス分けは2023年1月27日に行います
- ・クラスが成立しない場合、ご希望に添えない場合もあります
- ・各クラスとも定員に達し次第、順番待ちとなります

2025年度入園・入学申請は、お待ちしております

幼・小・中・高 教員・代替教員

随時募集

履歴書をお送りください

- ・毎週土曜日2~4時間の国語の授業
- ・教員免許状のある方(どの教科でもかまいません)、塾で教えた経験のある方
- ・労働許可がある方に限ります

問い合わせ先

Japanische Schule (Hoshuko)
TEL: 044 - 941-1554 電話での問い合わせ: 土曜日
E-mail: hoshukoz@hotmail.com
HP: www.jszurich.ch

BULLETIN BOARD

team104 東北支援バザー

9月24日(日) Gemeindestrasse 19, ZHにて例年通り、東北被災児童のためのチャリティバザーを開催します。詳細は夏休み明けにお知らせ致しますが、どうぞご予約下さい。日本の工芸品・和食器等のご寄付、問い合わせ先: seiundo@bluewin.ch HP team104.ch

『日本の歌(童謡と武満徹作品) & 『オペラ座の怪人』より』

日程: 3月11日(土)ゴレイ由美(ソプラノ)、竹下数雄(テノール)、岡田直子(ピアノ)、入場無料、Kollekte
・8月27日(日) 17:00~18:00
Zunftthaus zur Waag,
Münsterhof 8, 8001 Zürich
・9月3日(日) 17:00~18:00
Kirche Buchberg (SH) (竹下)



SCHWANENSEE PUPPE L. TSCHEKOWSKI
DIE FLEISCHERIN UND DER FISCHER
ROCKSTRÄUPEL UND DER SCHNEEWEISSCHEN
WIKELINGE SCHNEEWEISS
Gisela Turell, Mami Honda, Michelle Williams, Lisa Spitzing
©2023 Opernhaus Zürich

当誌'21年4月号にインタビュー記事をお載せさせて頂き、ご入会頂いたチューリッヒ・バレエ団のソロダンサー(グループ内)前田明里さんが、バレエディレクターのシュブック氏に引き抜かれ、ベルリンへ行かれます。最後の舞台《チェリスト》で、彼女が踊ると、特別なライトが当たっているのかと思うほど輝いていたのは、そんな背景が自信となって発光していたのかも

知れません。会員の皆様にもメッセージが届いています。

「皆さま、こんにちは。この度、8月からベルリン国立バレエ団に入団し、新たな舞台に立つ事になりました。チューリッヒでの時間は私にとって貴重な経験であり、大切な思い出です。美しい街並みや素晴らしい文化に囲まれて暮らせた事に感謝しています。一方で、新たな挑戦としてベルリンでの舞台に立つことはとても楽しみで、新しい環境での出会いや経験に胸を膨らませていきます。チューリッヒを離れるのは寂しいですがベルリンでも全力で頑張ります!」

これからの活躍も注目です!(SN)

グラスホッパー・クラブ・チューリッヒ



左から
川辺 選手
瀬古歩夢 選手
原輝綺 選手

「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり」楽しい時は過ぎ去るのも速い。寒さの中、凍えながら応援したり、HP上の実況中継ラジオを聴きながら夕飯を作ったり、3人をJCZイベントにお招きしたりしましたね。スイスサッカー史上初、川辺駿、瀬古歩夢、原輝綺3選手の日本勢が牽引したグラスホッパー・クラブ・チューリッヒの一時代も終わりを告げます。

川辺選手は当クラブと提携関係にあるイギリスプレミアリーグのウルヴァーハンプトンと2022年初めに契約を交わしており、来季からいよいよプレミア挑戦を果たします。原選手はレンタル元の清水エスパルスに復帰します。

でも瀬古選手は、きっとまた一回り大きくなって、7月22日開始の来シーズンでも元気な姿を見せてくれることでしょう。

なんたって、3月24日のキリンチャレンジカップ・ウルグアイ戦で日本代表デビューを飾り、6月の同日本代表にも川辺選手と共に選ばれたのです！6月15日のエルサルバドル戦では後半に入った川辺選手が、メディアも絶賛のナイスプレーで1点をアシスト、20日のペルー戦では瀬古選手が終盤に出場しました。瀬古選手はスイス・スーパーリーグでの1年間で成長を感じているそうです。

瀬古選手を「ロックスター」と称して可愛がっていたコンティエニ監督やJCZに応援要請してくれた広報部長のジャンルーカ・デ・クリストファロ氏も辞任を決めました。移籍当初から共に戦った川辺選手も、ご家族を日本へおいてホテル住まいだったため手料理を振る舞ったという原選手もいない独りのシーズンが始まります。「体格の良い選手とのマッチでも100%勝てるようにならないと世界のトップでは戦っていけない(web.ultra-soccerより)」と頑張る瀬古選手を、皆さん引き続き応援していきましょう！

JCZ後援 GINMAKU映画祭レポート

ようやく開催の運びとなったGINMAKU映画祭は成功裡に無事、幕を閉じました。数人のレポートを掲載します。

『4年ぶりのGINMAKU映画祭』

主催者の松原美津紀さんが選び抜いた数々の作品の中から、できる限り時間を都合して出かける。スイスにいと普通あまり目にする事の無いドキュメンタリーは日本の困難な社会的側面を映し出している、心が痛くなったりもするけれど、希望を感じさせてくれる作品に出合うと嬉しくなる。一人の人を20年も追い続けているドキュメンタリー「チョコレートな人々」は社会的弱者と共存できる社会を目指して日々奮闘しているチョコレートブランドの物語。「PLAN75」では、自分の意志よりも社会的な圧力で生死を選択せざるを得ない状況が、いつか現実になるのかもしれない。一人一人が最期の時まで心安らかに生きていける社会にしていなくてとは、私たちの未来に思いを馳せる。GINMAKUを通じて知った中川監督の作品が見られてまた幸せな気持ちになる。この映画祭は偏に主催者の苦勞の賜物だけれど、こんな素敵なイベントに出会えたことに心から感謝。また来年も心躍る作品に出会えますように。(K.H)

『チョコレートな人々』を観て(監督の質疑応答付き上映)

「監督はとても温かい人で、良い映画でした。障がい者だけを雇う会社があるってすごいと思います。そういう会社のお陰で障害者も働けるのはとても良い事です。この映画のおかげで、そんなに難しい社会の課題を解決することに成功できるのだ、という事が分かりました」(N.S)

「この映画は、障がい者の方々と共に働くことの大変さと忍耐を具体的に示しています。そして同時に、このテーマと彼らに打ち込むことでどんなに心が満たされるのかも強調しています。監督と「チョコレートマン」がこの企画に何年も費やしている情熱が伝わって来ます。この映画は非常に鮮明な印象を僕に残してくれました」(T.Z)



来年も是非観に行きたいですね。

JCZ後援 深田勇馬コンサートレポート

6月4日Zunfthaus zur Waagでの津軽三味線コンサートを聴いた。縦長のホールを横長に使った会場は満席で、熱気に満ちていたが、世界チャンピオンという深田勇馬さんの三味線の美しい響きが沁み渡る。パチ捌きは清々しい勢いで、周りを囲むスイス在住のお弟子さん等との息も合っている。ホーファー修子さんの歌声も冴え、進行役のポツツイニ留名さんの解説も興味深い。最後は三味線のヴィルトゥオーゾにまで至り、フラメンコギターかパガニーニか、津軽三味線ってそれらに匹敵する芸術として世界に誇れるものなのだなぁ、と改めて認識した。

もう20回ほど来瑞しているという深田氏、ソロコンサートは初めてという。「本当はもっと響くはずなのですが・・・」と、会場の湿気に悩まされたようだが、津軽三味線の音がこれほど美しいと感じられたのは初めての体験だった。「日本からこんな遠くで、日本の芸術をしっかりと継承している人々がいることに感動を覚えます。そしてそんな人々の前で弾けるのは喜びです」と、最後の1人まで聴衆を見送る深田氏は、これからも、どこに行っても、日本の良さを伝え続けてくれるだろう。来年も2月辺りにコンサートが予定されているという。是非また聴きに行きたい。

チューリッヒ日本人学校 全日校校長 河原 英司 様、
補習校校長 長森 千枝 様より御礼状をいただきましたのでここにご紹介致します。

運動会御臨席のお礼

向夏の候、貴職におかれましては、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃から本校の教育活動に御理解と御協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、このたび第34回チューリッヒ日本人学校運動会に、公私ともにお忙しい中を御臨席いただき誠にありがとうございました。おかげをもちまして、素晴らしい運動会が実施できましたことを心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

本年度も本校教育のより一層の充実を目指して、教職員一丸となって取り組んでいく所存です。

今後とも御指導、御支援のほどよろしくお願い申し上げます。





(Avaloq社外観)

avalog | 企業価値の向上へ奮闘し続ける、
Avaloq (An NEC Company)
An NEC Company

初夏の爽やかな日差しの中、Manegg駅からのんびりと歩いて5分とかからないAvaloq社を訪ねてみました。大きな建物の側面をずっと歩いて行くと、ようやく玄関が現れました。

広いエントランスの奥に受付があり、訪問記録はもちろんタブレットに記入、ミネラルウォーターを置いて、壁に設置されている大きな熱帯魚モニターを見ながら待っていると、チーフシナジニアフィサーの久保田さんが出ていらっしゃいました！

Avaloqは1985年にスイスで設立された銀行システムの開発会社で、そのシステムはATMや携帯・パソコンでの決済、そしてTWINTのような形でも使われているようですが、特にウェルスマネージャーやファミリーオフィス、プライベートバンクなどの富裕層向け資産運用に使われるため、世界中からお金が集まってくるスイスはやはり強いのだそうです。そんな欧州でトップクラスのシェアを持つAvaloq社を、2020年12月にNECが買収したのです！

実は、スイスとNECの縁は古く、ヴァレー州Leuk等に立っている衛生地上局は70年代にNECが日本で作り、日本航空が運んで来たのだということです。他にも郵便物仕分け装置やスーパーコンピュータ等NECの製品はスイス中に浸透しているようです。すごいですね、日本！すごいですね、NEC！

スイス向けNECビジネス事例



◆ Swisscom向け

- ワイヤレス無線機 (Pasolink)
- IP移行用オペレーションサポートシステム (Netracker)



◆ 衛星地上局 (@Leuk)



◆ Swiss Post向け 郵便仕分け装置



◆ スーパーコンピュータ
(スイス国立スーパーコンピューティングセンター-巻料メーカー)



14 © NEC Corporation 2021

Verbreitung & Transfer von NEC

そんなNECはなんと1898年にアメリカが作った日本の会社だそうです。「顧客が要求する物を忠実に作っていた、争いを好まないおっとりした社風」が当時から受け継がれていると久保田さんが分析してくれました。NECの宣伝と意識していなくても鮮明に覚えている「パズルでござ〜る！」のコピーが台頭した時代には、家電などB to Cも手がけていたものの、約20年前にはB to BやB to Gに転身したということで、時代を先読みする能力に長けた会社なのですね。

「海外で仕事がしたい」とNECに新卒入社してからずっと貢献してきた久保田さんに今回の買収までの経緯をご説明頂きました。

「今、紙を使わないですよ〜。ハンコも・・・。コンビニで住民票が取れる時代になりました。でもデジタルトランスフォーメーションは、実はNECがずっとやってきた事です。現在は政府や流通、製造、

金融といった企業に提供するシステムと5G等の通信、そして社会インフラの3本柱に注力しています。社会インフラとは、例えば空港のレーダーや郵便番号を読み取る機械、それからセンサーや通信機器などの防衛関係も網羅しています。

そんなNECが誇る技術の中に指紋認証があります。犯罪現場での捜査ツールから発展してIDカードやパスポートにも使われ、その正確さと認証スピードで定評を得ています。今や時代は顔認証に移行しており、この分野でも空港での出入国や搭乗などにNECの技術が使われています。しかしながら、こうしたビジネスを海外で一から立ち上げるより、その分野で優秀な会社を買おう、というになり、まず警察関係に強い英国のNorthgate Public Service社を買収しました。

警察の次は政府に着目し、電子政府系に強く、政府のシステム全般を司っていたデンマークのKMD社を買収しました。そして次は金融に目を移し、金融のICT化に強いAvaloq社買収合意へと進んだのです。それによってAvaloq社も、NEC社の持っているグローバルな販路を使い、アジアや中近東、そして日本でもビジネス展開できるようになりました。また、Avaloq社の以前の株主は投資ファンド達だったので、利益は短期的視点で株主に還元されていましたが、NEC買収後は利益を更なる研究に投資することが両社共通のメリットとなるため、今後ますますの発展が期待できます。」

「買収」と聞くと、つい勝者と敗者、主従の関係を思い描き、スイスの会社を乗っ取ってしまって反感を買わないのか、などと案じてしまいましたが、双方にとってハッピーなカップリングのようでホッとしました。取材中にAvaloq社のCEO2人と久保田さんを一緒にカメラに収める好機に恵まれましたが、ポジティブな化学反応がビビッと感じられた一瞬でした。こんな風にスイスと日本が刺激し合いながら日々前進している会社なのだ〜と頼もしく思いました。



左から Co-CEOのThomas Beck氏、久保田敦雄氏、Co-CEOのMartin Greuelwelder氏

この日は丁度翌日のイベント準備に湧いている時だったので、会議場ホールも見せて頂きました。このようなイベントで各種の銀行や顧客を繋ぐ機会を提供するのもAvaloq社の使命、と捉えているそうです。Avaloq社がシステムを提供している多数の企業の中には、見慣れた銀行等が名を連ね、その他サービス全般を請け負っている企業も全世界にどんどん増えているそうです。それらの企業同士がAvaloq社を通じてネットワークを広げていくプラットフォームを実現させているのですね。



(会議場ホール内観)

そんな勢いのある会社の、将来のビジョンを尋ねてみました。「Avaloq社の価値をもっと上げていきたいですね。それから『富裕層の資産運用のデモクラタイズ』という目標も掲げています。対象を大衆層に広げ、Web銀行なども視野に入れていきたいと思っています」と言ってもらえて、富裕層には一生なれない私なども直接恩恵が受けられる日が来る、と仲間に入れてもらえた気分になりました。これからのAvaloq社に注目していきたいですね！(SN)

Avaloq Group AG
Allmendstrasse 140,
8041 Zurich
www.avalog.com

7月イベント ▶ ローゼンガルト・コレクション・ガイドツアー

昨年の会報Edelweiss 11月号の《美のプリズム》で紹介されたローゼンガルト・コレクションを、記事を書かれたご本人、パウルクレーセンター研究員の柿沼万里江さんに解説していただきます。柿沼さんご専門のクレーの作品も多く収蔵されていますので、クレーについてお話を伺ういい機会です。ガイドツアーの後にランチもご一緒できればと思っています。チューリッヒから早い電車で40分ほどです。

日時：7月12日(水) 11時～
 集合場所：Museum Sammlung Rosengart, Luzern 入り口
<https://www.rosengart.ch/de/>

定員：20名
 入館料：大人20.-/AHV 18.-(10人以上のグループの場合割引あり)
 Schweizermuseumpass, Reiffisenkarteをお持ちの方は無料。

*7月7日(金)までに、JCZ HPイベント申込フォームより、
 またはメールでkikaku@japanswiss.chまでお申し込みください。
 その際に、上記のパスの有無、ガイドツアーの後のランチに参加されるかどうか
 もお知らせください。

アフタヌーンカフェのお知らせ

夏本番。もうすぐ学校の夏休みも始まりますね。今回のカフェは第2火曜日になります。情報交換の場としてもご活用ください。Jelmoliのカフェでお待ちしております。



日時：7月11日(木) 14:00-16:00
 場所：チューリッヒJelmoli 3Fのレストラン
 申込：JCZ HPイベント申込フォームより、
 またはメールでkikaku@japanswiss.chまで



EVENTS & FESTIVALS

チューリッヒ近郊
お出かけ情報

(URLの詳細は、HP: japanswiss.ch上の「チューリッヒ近郊お出かけ情報」をご覧ください)

*塩田千春作品展「Eye to Eye」

～9月10日 Museum Haus Konstruktiv
 5月30日のオープニングには藤山大使もご出席、ご挨拶。
 国際交流基金助成
<https://www.hauskonstruktiv.ch/ausstellungen/chiharu-shiota>

*森林浴

7月1日(土) 10時半～12時半
 Smaragd, Vorplatz 8000 Zürich
<https://rietberg.ch/kalender/381552>

*トーンハレ <https://www.tonhalle-orchester.ch>

「オルガンの世界」7月1日(土) 19時半
 クリストファン・シュミット(オルガン)、バッハ、細川俊夫ほか
 「映画音楽～チャップリンのコンサート」
 7月7日(水) 19時半、8日(木) 18時半
 「MTMT 津田理子 ピアノリサイタル」8月29日(火) 19時半
<http://michiko-tsuda.com/event/mtmt-recital2023/>

*チューリッヒ歌劇場 <https://www.opernhaus.ch>

ヴェーバー作曲《魔弾の射手》7月1、6、9日
 第6回オーケストラ・コンサート 7月2日(日) 19時
 ノセダ(指揮)、ベルク作曲ヴァイオリン協奏曲テツラフ(ソロ)、
 ブラームス交響曲第2番
 プッチーニ作曲《トゥーランドット》7月4、8日
 ビゼー作曲《真珠採り》7月5、7、9日
 歌劇場附属オペラ学校公演 7月2日(日) 11時
 Tanz Akademie Zürich公演 7月8日(木) 11時

*チューリッヒ・フェスト <http://www.zuerifaescht.ch>

パーティ 7月7日(金) 18時、7月8日(土) 17時
 Kongresshaus – Terrasse Claridenstrasse 5 8002 Zürich
<https://www.ticketcorner.ch/event/zuerifaescht-terrazza-x-babalu-x-buongiorno-zurigo-kongresshaus-zuerich-17098761/>

VIPディナー 7月7、8日 20時～23時
 Zwinglidenkmal Limmatquai 8001 Zürich
<https://www.utokulm.ch/zuerifaescht>

花火 7月8、9日 22時半～1時
 Strandbad Mythenquai 95 Mythenquai 8002 Zürich
<https://www.tcs.ch/de/der-tcs/sektionen/zuerich/untersektionen/zuerich-stadt/>

*Open-Air Kino Filmfluss

7月12～30日 <https://www.filmfluss.ch>
 Badi Unterer Letten Wasserwerkstrasse 131 8037 Zürich

*Allianz Cinema

7月20日～8月20日 19時～24時
 Zürichhorn Bellerivestrasse 170 8008 Zürich
<https://zuerich.allianzcinema.ch/de>

*ライブ・ラジオ・フェスティバル

7月20日～9月2日 17時～24時
 Schweizerisches Nationalmuseum / Landesmuseum Zürich
 Museumstrasse 2 8001 Zürich
<https://www.landmuseum.ch>

*スイス建国記念日

8月1日(火) ブランチ 11時～14時
<https://utokulm.ch/de/events/1-august-brunch>
 バーベキュー 18時～22時
 Hotel & Restaurant UTO KULM Gratstrasse 8143 Uetliberg
<https://utokulm.ch/1-august>

*ルツェルン音楽祭

8月8日～ lucernefestival.ch

*Lovemobileストリート・パレード

8月12日(土) Seebecken Zürich Utoquai 8008 Zürich
<https://www.streetparade.com>

*Valhalla Lovemobile

13時～23時55分
 Utoquai 50 8008 Zürich www.rodamusmusicstudios.com

*Theater Spektakel

8月17日～9月3日 15時～
 Landiwiese Mythenquai 8038 Zürich
<https://www.theaterspektakel.ch>

*第57回リマト川遠泳大会

8月19日(土) (雨天の場合26日) 12時～16時半
 Frauenbadi – Barfussbar Stadthausquai 12 8001 Zürich
<http://www.limmatschwimmen.ch;>

*村祭

8月25日(金) 18時～、26、27日(土、日) 11時～2時
 Zürcher Innenstadt 8000 Zürich <https://doerfliaescht.ch/>

*ダイヤモンド・リーグ

8月31日(木) 18時～23時
 Stadion Letzigrund Badenerstrasse 500 8048 Zürich
<https://zurich.diamondleague.com/home/>

KETTE

Vol.169

吉田友秀さん

(Zürich、
7月中旬よりDietlikon 在住)

*お仕事は？

Climeworks (クライムワークス) という会社で、空気中の二酸化炭素をとる化学材料の研究開発をしています (取った二酸化炭素は地中に埋めて石にします)。当社は2009年にETHの学生2人が作った比較的新しい会社で、社員は300人程度、Oerlikonにあります。

人間が空気中の二酸化炭素を増やすぎたのが、酷暑や洪水の原因の一つとされています。それをなんとか元に戻そう、というのが会社の目的です。夏暑いのは嫌ですが、それ以上にまずいと思っているのは、文化崩壊の可能性です。海面が上昇して住むところが狭くなったり、作物が育ちにくくなったりして、それが理由で暴動が起きたり、生活の質が落ちたりする可能性があると思っています。私たちの世代は二酸化炭素を出すことで快適な生活を手に入れたとも言えるわけですが、そのツケを子供世代に払わせるのはマズいと思っていました。そこで自分でなんとかできないかと考えていた矢先、この会社の募集があり採用いただきました。気候変動対策は欧州、その中でもスイスは技術的にも先陣を切っており、そういった「場」で仕事をするのは非常にワクワクしますし、楽しいです。

*スイスに来るまでのお話

元気な3人の娘 (現在7歳、10歳、12歳)の子育てを大変ながらも楽しくしていました。子供達も段々と大きくなり、自分達

でできることが増えて父の負担はやや減ってきたように感じます。最近では子供たちは「和歌山児童合唱団」に所属し、毎週末の練習と、定期的に開かれるコンサートを楽しみに頑張っています。歌はいいですよ。癒されます。Youtubeなどで動画をご覧いただけると幸いです。

住む場所は仕事や学校の関係で、水戸、野田、豊中、米国ミネアポリス、四日市、和歌山と、転々としてきました。

転職前は、日本の花王という会社で、トナー (コピー機の中の色のついた粉です) やインクジェットインク (日本では年賀状でよく使われると思います) など、印刷に使う材料の研究開発をしていました。花王は洗剤、おむつ、クイックルワイパー、バブなど日用品のイメージがあるかと思いますが、売上の4分の1近くがトナーやインクジェットインクなどの工業製品です。ぜひ日本にお寄りの際は、花王の製品をお願い求めください!



*スイス生活は如何ですか？

お会いした皆様に大変助けていただきながら、思ったよりも違和感なくスイス生活を楽しんでいます。感謝しかありません。スイスに来て初めて思ったのは、何て静かなんだろうということ。現在チューリッヒ市の中心に近いところに住んでいるのですが、それでもスイスに来る前に住んでいた和歌山と全く違い、特に初めは怖くなるほどの静けさだと感じていました。いまはやや慣れてきましたが、日本に一時帰国するとその違いを感じます。一方で同僚 (スイスの田舎の方出身) に聞くと、

チューリッヒは人が多すぎて怖いと言っていましたので、感じ方は育った環境にもよるのだなと思いました。街中でも安全と感じるのも驚きでした。話には聞いていましたが、小さな子供が一人で歩いて登下校しているのを見るのは、今でも驚きですね。

日曜日にお店がやっていないのも、私は良いことだと思っています。日本ですと日曜日に買い物に行くとクタクタになって月曜日・・・ということもありましたので、近場でゆっくり過ごす日曜日は素晴らしいです。

花束を持っている方をよく見かけるのも驚きでしたね。見かけるだけで和やかな気持ちになります。誰にあげるんだろうとか、どこに飾るんだろうとか考えます。花が日常に溶け込んでいるのは素敵です。

*ご出身は？

茨城県水戸市で、納豆、水戸黄門、偕楽園などが有名です。都道府県魅力度ランキングでは最下位の常連なのですが、そんなに魅力ないかな〜と思っています。メロン、蓮根、干し芋などが日本一の生産量だそうです。日本のスーパーでは茨城県産をよく見かけます。県内には、鹿島アントラーズ、筑波研究学園都市、大洗の水族館、ひたち海浜公園のネモフィラなど、色々あります。「だっぺ」「ごじゃっぺ」などの茨城弁ネイティブです。大学に行った時には東北出身の友人に「一番なまってるよね」と言われショックを受けました・・・。

水戸は東京から常磐線特急で1時間ほどでアクセスも良いですし、水戸駅から歩いて行けると千波公園という大きな公園もあります。日本に行った際には、ぜひ訪れてみてください!

*会員の方へのメッセージ

日本人会の皆様には既に本当に良くして頂き、感謝しかありません。今後イベントなどでお会いできる際はぜひお声がけ頂ければ幸いです。9月初旬には家族4人が引っ越してきます。引き続き、仲良くして頂ければ有り難いです。どうぞ宜しくお願い致します。

編集後記

スイスの6~7月は終了・お別れの季節です。ご卒業等何かを完遂なさった皆様、おめでとうございます。新しい生活が始まる前に夏休みでしっかり充電して下さい。夏休み中は各地でフェスティバルが催されます。ヴェルビエ音楽祭には、クララ・ハスキル国際ピアノ・コンクール (於チューリッヒ) 2017年優勝者の藤田真央が、今年も登場します。そしてトーンハレ管弦楽団はコロナ禍で延期されていたアジアツアーを10月によりやく決行します。10月4日にはチューリッヒで同じプログラムが聴けるので、一足早く聴いて日本のお友達に教えてあげるのもいいかも? そんなこんなで2023年も半分が過ぎてしまいました。後半も皆様と共に当会を盛り上げていきたいと思えます。どうぞよろしくお祈りします!(SN)

広告掲載のご案内

ジャパンクラブチューリッヒでは、会員の方からのお知らせ・広告の掲載、フライヤー等の会報同封配送を、有料 (一部無料) で随時受け付けております。詳細については編集部までお気軽にお問い合わせください。

伝言板コーナーをご利用ください

200文字以内のお知らせ・ご案内は無料で掲載いたします。掲載内容責任者のお名前 (会員に限る) を入れた原稿を毎月10日までに編集部にてお送りください。

*JCZでは広告・フライヤー・伝言板の記載情報については責任を負いかねます

JCZ会報誌エーデルワイス
2023年7・8月合併号

発行責任者: 青砥 玄 (会長)
編集: 中 東生 阿部 牧子
鎌田 裕子 市居 美帆



編集部専用メールアドレス
edelweiss@japanswiss.ch

チューリッヒ日本人会
JCZ Japan Club Zurich
Office of Honorary Consul
General of Japan
Utoquai 55, 8008 Zürich
www.japanswiss.ch
jcز@japanswiss.ch

